

考察

1 「麴町小学校に対するアンケート調査」(全保護者対象)について

- 項目「2」については、「あてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が90%を越えている。保護者への文書については概ね分かりやすく内容も適切であると考えられる。
- 項目「3」については、「あてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が80%を越えているが、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」についても15%を越えている。今後は保護者にとって、より連絡や相談がしやすく、適切に対応する体制を作るとともに、学校全体としても誠意をもって保護者に対応することを意識していきたい。
- 項目「5」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が15%を越えている。このことからより分かりやすく楽しい授業の充実と、個に応じた丁寧な指導を心がけ、児童一人一人に基礎的・基本的な学力を身に付けさせることが重要であると考え。また、学校全体でより効果的な少人数指導やティーム・ティーチングの在り方についても検討していきたい。
- 項目「6」については、「あてはまる」「だいたいあてはまる」の割合が90%を越えている。安全に関わる配慮については概ね理解をいただいているが、今後も児童の安全確保についてしっかり対応していききたい。
- 項目「7」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が10%を越え、項目「16」については20%を越えている。そして、両項目とも「わからない」の割合が高い。このことから、子どもの問題や悩みやトラブル等について、未然に防ぐための工夫や丁寧な対応に心がけるとともに、学校がどのような対応や配慮を行っているか保護者に発信していくことをより心がけていかななくてはならないと考える。
- 項目「9」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が15%を越えている。このことを受けて、夏季休業中の学力育成教室を今年度の各学級2日間実施から、来年度は学年4日間の実施とし、補充学習ができる回数を増やす予定である。
- 「11」については、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合が25%を越えている。宿題や課題については、「多い」「少ない」の両方の意見があると予想される。学年・学級によって学習内容等から量の多少はあるが、学校としてもその在り方を検討しながら、家庭学習を充実したものになるように検討していきたい。
- 項目「12」「13」については、「わからない」の回答が10%を越えている。図書室やコンピュータ室の活用、外国人や地域の講師を取り入れた学習の一層の充実に取り組むと同時に、それらの活動を保護者にも発信していきたい。
- 項目「18」については、「あてはまる」の割合が50%を越えている。行事や学校公開等を通して子どもたちの様子は分かりやすいと感じていただいていると思われる。

2 「授業や生活についてのアンケート調査」(5・6年児童)対象について

- 質問1については、概ねどの教科・領域とも「よくわかる」「わかる」の割合が90%を超えている。今後は児童の興味・関心を引き出し、一人一人の児童が意欲的に学習に取り組めるような授業を展開していきたい。
- 質問2の項目「1」と「2」については、4つの選択肢からだったので、選びにくい児童も多かったようだ。次年度以降の選択肢を検討していきたい。
- 質問2の項目「4」については、授業に集中して意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。ただ、そうでない児童も高学年になると増えてくる傾向にあるので、わかりやすく楽しい授業の展開を心がけていきたい。
- 質問2の項目「5」については、児童一人一人の発言を大切にし、どんなことでも言い合える学級の雰囲気を作るとともに、児童が発言をしたくなるような授業を展開できるように教員一人一人研修を深めていけるようにする。
- 質問3の項目「1」については、「とても楽しい」「楽しい」と答える児童が90%に達しているが、そうでない児童も10%おり、どの児童にとって魅力的で楽しい学校であるようにしていきたい。
- 質問3の項目「2」については、「よくある」「ときどきある」が40%に達している。高学年なので、その割合も多くなっていると考えられるが、「行きたくない」原因について分析し、一人一人の児童の心のつぶやきに耳を傾けることを心がけるようにしたい。
- 質問3の項目「3」については、半数近くの児童が「親」を相談する相手に選んでいる。また、先生の割合が1%しかいなかった。「いない」の中には、悩み自体がないという児童も含まれていると考えられる。